

(別 紙)

「お客さま本位の業務運営に係る取り組み方針」

取組結果（2019年4月～2020年3月）

2020年5月29日

T&Dアセットマネジメント株式会社

[方針1] より良い商品・サービスの提供①

1. 主要ファンドの運用パフォーマンス

- 当社では、お客さまの多様なニーズにあった質の高い商品を提供するとともに良好な運用パフォーマンスを達成することが、重要なお客さま本位の業務運営であると考えています。
- このため、全ての公募投信の運用報告書において基準価額の騰落率（分配金再投資ベース）を公表しています。また、ベンチマークを設定しているファンドについては、ベンチマーク対比も公表しています。
- 主要ファンドの運用パフォーマンス（2019年4月～2020年3月）の状況は下表のとおりです。

主要ファンドの運用パフォーマンス（2019年4月～2020年3月）

ファンド名	基準価額の騰落率 (分配金再投資ベース)	ベンチマーク・ 参考指標リターン	超過収益率	ベンチマーク・参考指標	
アクティブ バリュウー オープン	-12.39%	-11.85%	-0.54%	東証株価指数 (TOPIX)	ベンチマーク
大同リサーチ&アクティブオープン	-4.55%	-11.85%	7.30%	東証株価指数 (TOPIX)	ベンチマーク
青のライフキャンパス・ファンド (標準型)	-3.09%	-4.66%	1.57%	合成指数 (注1)	ベンチマーク
赤のライフキャンパス・ファンド (積極型)	-3.52%	-6.08%	2.56%	合成指数 (注2)	ベンチマーク
世界優良株ファンド (3ヵ月決算型)	-9.70%	-10.64%	-	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算)	参考指数 (注3)
T & Dインド中小型株ファンド	-32.63%	-43.24%	-	Nifty Midcap100 (円換算)	参考指数 (注3)
国内株式 (ESG運用)	-3.01%	-9.50%	6.50%	東証株価指数 (TOPIX) 配当込み	ベンチマーク
リビング・アース戦略ファンド (年2回決算 コース)	3.01%	-	-	-	-
ロボット戦略 世界分散ファンド	11.05%	-	-	-	-
ロボット戦略II 世界成長ファンド	5.63%	-	-	-	-

(注1) 東証株価指数 (TOPIX) 33%、NOMURA-BPI総合38%、MSCI-KOKUSAIインデックス (除く日本、円ベース) 15%、FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) 12%、および短期金融資産2%を独自に合成し、指数化したもの。

(注2) 東証株価指数 (TOPIX) 44%、NOMURA-BPI総合23%、MSCI-KOKUSAIインデックス (除く日本、円ベース) 17%、FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) 14%、および短期金融資産2%を独自に合成し、指数化したもの。

(注3) 参考指数は、投資対象資産の市場動向を確認いただくための指数であり、ベンチマークではありません。

※東証株価指数 (TOPIX) とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIX に関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

MSCIコクサイ・インデックスはMSCI が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI に帰属します。

NOMURA-BPI総合は、日本国内で発行される公募債券流通市場全体の動向を的確に表すために野村證券が開発・公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

出所：東京証券取引所、MSCI、野村證券株式会社、FTSE Fixed Income LLC、Bloomberg

2. 主要ファンドの運用パフォーマンス

主要ファンドの騰落率（設定来、過去3年間、1年間）

ファンド名	設定年月	基準価額の騰落率 (分配金再投資ベース)		
		設定来	3年	1年
アクティブバリューオープン	1996年2月	81.21%	-6.08%	-12.39%
大同リサーチ&アクティブオープン	1999年6月	47.82%	10.69%	-4.55%
青のライフキャンバス・ファンド（標準型）	2000年2月	30.80%	5.01%	-3.09%
赤のライフキャンバス・ファンド（積極型）	2000年2月	27.54%	6.29%	-3.52%
世界優良株ファンド（3ヵ月決算型）	2003年9月	92.85%	6.69%	-9.70%
T & Dインド中小型株ファンド	2011年2月	92.39%	-32.60%	-32.63%
国内株式（ESG運用）	2015年7月	18.74%	12.54%	-3.01%
リビング・アース戦略ファンド（年2回決算コース）	2016年6月	-4.21%	-5.76%	3.01%
ロボット戦略 世界分散ファンド	2016年9月	19.67%	16.33%	11.05%
ロボット戦略Ⅱ 世界成長ファンド	2018年7月	8.86%	-	5.63%

[方針1] より良い商品・サービスの提供③

3. バランス型ファンドのパフォーマンス

(1) ベンチマークあり(※1)

	リターン (%)						超過収益 (%)			リターン/リスク (標準偏差)					
	過去1年		過去3年		過去5年		過去1年	過去3年	過去5年	過去1年		過去3年		過去5年	
	ファンド	ベンチマーク	ファンド	ベンチマーク	ファンド	ベンチマーク				ファンド	ベンチマーク	ファンド	ベンチマーク	ファンド	ベンチマーク
青のライフキャンバス・ファンド (標準型)	-3.09	-4.66	1.64	0.36	1.10	0.47	1.57	1.28	0.63	-0.45	-0.55	0.23	0.05	0.14	0.06
赤のライフキャンバス・ファンド (積極型)	-3.52	-6.08	2.05	0.02	1.30	0.06	2.56	2.03	1.24	-0.40	-0.57	0.23	0.00	0.13	0.01

(※1) 国内株式、国内債券、外国株式、外国債券の各マザーファンドのベンチマークを基本ポートフォリオで組み合わせた合成指数をベンチマークとしており、これに対する信託財産の長期的な成長を目的とするファンド。

(2) ベンチマークなし(※2)

	リターン (%)			リスク (標準偏差) (%)			リターン/リスク (標準偏差)		
	過去1年	過去3年	過去5年	過去1年	過去3年	過去5年	過去1年	過去3年	過去5年
ロボット戦略世界分散ファンド	11.05	5.17	-	10.88	10.96	-	1.02	0.47	-
ロボット戦略Ⅱ世界成長ファンド	5.63	-	-	9.18	-	-	0.61	-	-

(※2) 絶対収益の追求を目的とするファンドで、ベンチマークの設定はなし。

[方針1] より良い商品・サービスの提供④

4. お客様のニーズにあった商品の提供および販売促進

- 当社は、お客様の多様なニーズにあった質の高い商品の提供に努めています。
- 投資家が長期保有する上で、変動率を一定水準以内に抑え、上昇相場でも下落相場でも相対的に安定したキャピタルゲインが期待できる「ロボット戦略 世界分散ファンド」と「ロボット戦略Ⅱ 世界成長ファンド」を中心に、世界の金融市場で低金利が続く中、金利ではなく配当を安定的なインカム収益として投資家に提供する「米国リート・プレミアムファンド」も含め、当社の良質なファンドの販売促進を行っています。
- ネットチャネルを主要販売会社とする「T&Dベトナム株式ファンド」を2020年2月に新規設定しました。当ファンドの主要投資対象であるインドシナ地域株式マザーファンドは12年以上におよぶベトナム株式運用のトラックレコードがあります。類似ファンドにおいて業界最低水準の信託報酬を実現しました。
- 「米国リート・プレミアムファンド」、「T&Dインド中小型株ファンド」、「ロボット戦略 世界分散ファンド」など主要ファンドの信託期間延長を実施し、お客様に長期の投資機会をご提供いたしました。
- お客様本位の事業戦略を検討するため2020年1月に事業開発室および運用開発室を設置し、お客様（特に資産形成層）の長期的・安定的な資産形成に寄与する新たなビジネス・モデルや、お客様本位の商品・サービス・販売方法等の具体的な施策について、継続的に検討・推進する体制を整備しました。

5. 日本版スチュワードシップ・コードの改訂への対応

- 「スチュワードシップ責任を果たすための方針」に則り、スチュワードシップ活動委員会において年間方針と活動計画を定め、スチュワードシップ活動を実施しました。
- 議決権行使については、企業の状況や対話の内容を踏まえた行使に努めました。
- 企業との対話の中で企業の経営戦略やその方向性が持続的成長に沿わないと判断した場合には、当社の考えを伝え、持続的成長が実現するよう議論を継続して行っています。

6. 議決権行使の個別開示

- 2017年4月以降開催された株主総会から四半期ごとにホームページにて公表しています。

[方針2] お客さま本位の情報提供①

1. 手数料その他費用の明確化

- 当社は、お客さまにご負担いただく手数料その他費用について、目論見書等において公表しています。
- 商品開発にあたっては、コスト・収支分析等を実施することにより、運用報酬等が適正水準にあることを検証しています。

2. わかりやすい情報の提供

- 当社は、お客さまに商品の仕組みや運用成果等をご理解いただくため、わかりやすい目論見書、運用報告書等の作成に努めています。
- 新規設定の公募投信の月報においては、一部の運用手法（マルチアセット運用戦略等）を説明するための図表や運用実績のグラフを追加し、お客様がご理解しやすくなるための工夫をしました。
- 勉強会・セミナーを実施し、商品の特色や運用状況の説明に努めました。
2019年度は投資家向けセミナーを23回、販売会社向け勉強会は44回開催しました。
- 日経平均株価指数が前営業日比で3%超下落した場合に、投資家向けに幅広く情報提供を行うべく、「TDAMマーケット・レポート」を作成し、当社HP上に迅速に開示しております。
- 月次で掲載している広範なグラフをもとに当社の経済・市場見通しをまとめた「投資環境レポート」に加え、今期より経済・市場動向の見方を顧客向けに簡易にまとめたレポート「フォワード・ルッキング・リサーチ」の掲載を開始し、今期は計17本を掲載しました。一部の販売会社のHPにもタイムリーに掲載することで、お客さま本位の情報提供に努めています。

[方針3] 業務運営の質の向上

ペーパーレス化への取組み

- 会社全体の生産性向上のため、決裁手順の電子化、TV会議システムの導入によるペーパーレス化を行いました。業務継続体制を強化するためテレワーク環境の整備にも取り組んでおります。

利益相反取引の適切な管理の継続的な実施

- 当社およびグループ会社の関係先である企業に対する議決権行使が議決権行使ガイドラインに沿って適切に行われていることを検証し、取締役会に報告を行いました。
- 議決権行使におけるより適切な利益相反管理のため、親会社であるT & Dホールディングスについては、議決権行使助言会社の助言を受けて議決権を行使することとしました。

[方針5] 「お客さま本位」の行動を実践する人材の育成等①

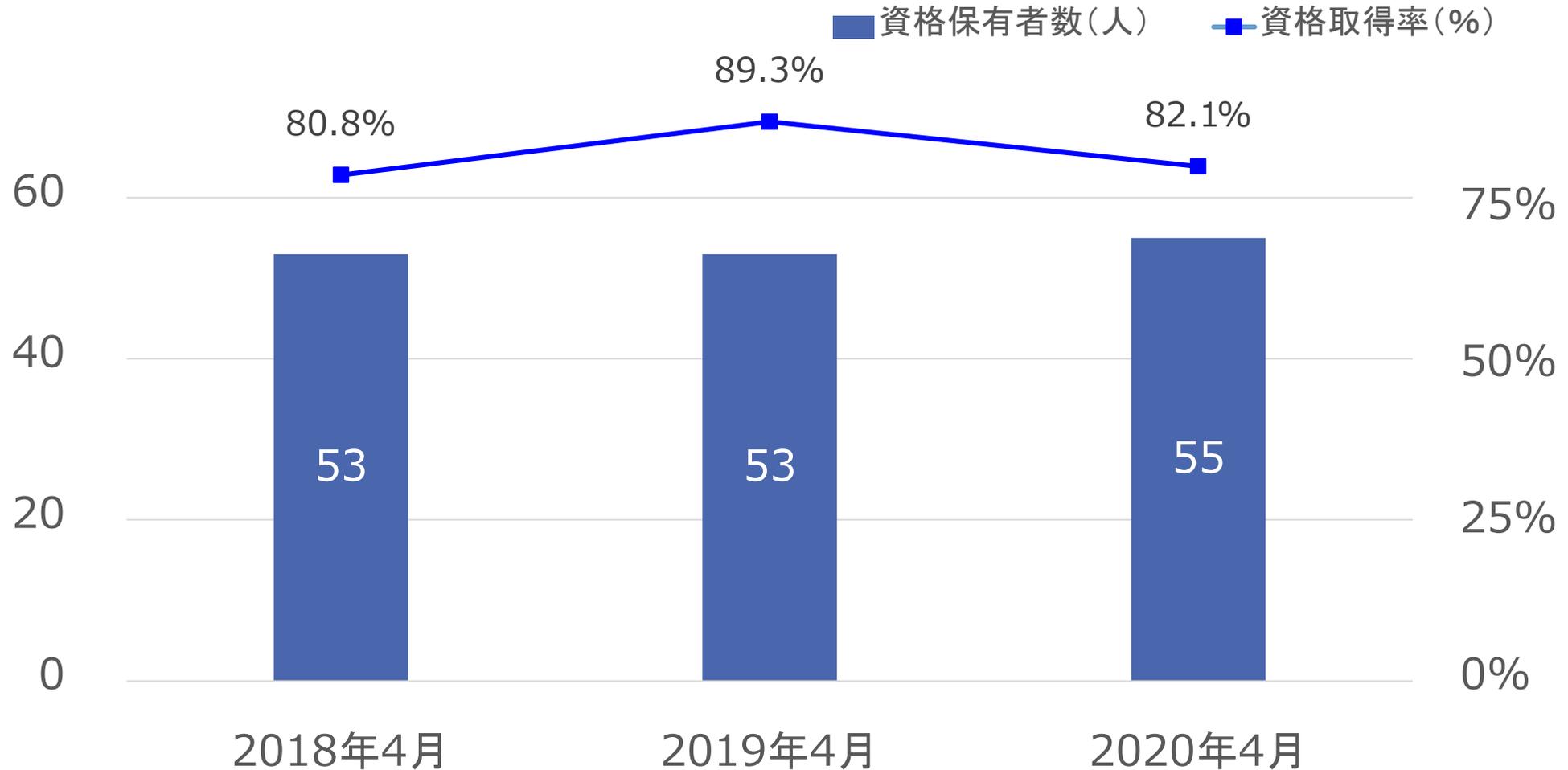
1. 全社研修の実施

- 「お客さま本位」の行動を実践する人材を育成するため、お客さま本位、コンプライアンス、情報セキュリティ等、様々なテーマの全社研修を実施し、各テーマ毎にその意義や重要性の周知を図りました。
- 2019年度に実施した主な研修は下表のとおりです。

実施時期	研修テーマ
4月	コンプライアンス・マニュアルの周知
5月	お客さま本位の業務運営に係る取組み状況
5月・7月・10月・2月	コンプライアンス・プログラム実施状況、法令等違反事例等の紹介
7月	マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与対策への当社の対応
9月・3月	情報セキュリティ管理態勢、苦情等に対する当社の対応
10月	スチュワードシップ活動
11月	インサイダー取引規制、法人関係情報の当社の管理
12月	人権啓発
2月	反社会的勢力対応態勢

[方針5] 「お客さま本位」の行動を実践する人材の育成等②

2. 証券アナリスト資格保有者数および運用担当者における証券アナリスト資格取得率



(注)資格保有者数は、運用担当者以外の取得者を含む。

「お客さま本位の業務運営」の取り組み状況の取締役会報告

- 「お客さま本位の業務運営」の取り組み状況について、取締役会に定期的に報告することとし、2019年10月度取締役会において、2019年度上半期の取り組み状況を報告しました。